

地域特産種量産放流技術開発事業（抄録） （二枚貝グループ、イタヤガイ）

勢村 均・道根 淳・常盤 茂

要 約

1. 種苗生産技術開発

1) 母貝養成

(1) 垂下飼育したイタヤガイ2年貝を用いて、9月から11月まで水温を20℃前後に設定し、投餌しながら飼育した。

(2) 成熟の進行度合いは、海中垂下飼育の母貝と変わらなかった。

(3) 生殖腺の量と貝の成長は、海中垂下飼育の母貝に劣った。

(4) 卵巣中の脂肪酸組成に、投与した餌料種類の違いによる差異は検出されなかった。

2) 幼生飼育

(1) ホッキガイで良好な成績を取めた幼生飼育方法を試みたが、本種では従来の飼育方法を上回る成績は上げられなかった。

(2) 飼育方法の改良策として、餌料について培養日数の違いが陽性の飼育成績に及ぼす影響を観察したが、明瞭な違いは観察できなかった。

(3) 流水飼育法と止水飼育法について、細菌相を同定中である。

3) 付着稚貝飼育

(1) 沖出し時の殻長と袋替えの間隔の調整により、殻長1cmまで最高73%の生残率を得た。

2. 資源添加技術開発

1) 母貝集団の造成が天然採苗に及ぼす効果

(1) 従来天然採苗が不可能であった区域に、約3,000個の母貝集団を造成することにより、1袋あたり最高400個体以上の稚貝が天然採苗できた。

(2) 母貝の成熟度、浮遊幼生の出現状況、天然採苗の試験結果より、得られた稚貝は母貝集団由来であると推定された。

*詳細は、平成7年度地域特産種量産放流技術開発事業報告書（二枚貝グループ）を参照のこと。